

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録 日本とエジプトの新たな協力関係の構築
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 113, No. 5, pp. 38-39
Citation(English)	INVENTION, Vol. 113, No. 5, pp. 38-39
発行日 / Pub. date	2016, 5



知財見聞録

日本とエジプトの新たな協力関係の構築

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

エルシーシ大統領の公式訪問

今年2月28日から3月2日にかけて、エジプト・アラブ共和国大統領のアブドゥルファッターハ・エルシーシ氏が日本を公式訪問し、安倍総理との首脳会談を経て、両国の安定と発展実現のための政治・安全保障における協力をはじめ、2国間の新たな飛躍に向けた日エジプト共同声明を発表した。

これまでの2国間協力の一つであるエジプト日本科学技術大学(E-JUST)にも言及、E-JUSTが両国の高等教育・科学技術面の中核となり、教育分野における協力強化に重要な役割を果たすことへの期待が表明された。

両首脳は、日本政府が専門家や教員の派遣、必要な機材の供与等の支援継続に加え、エジプト政府による大学のキャンパス建設と円滑な運営のため、可能な限りの措置をとると宣言した。

国際協力機構(JICA)をはじめとしてパートナーとなる日本の大学の支援も得つつ、さらなるE-JUSTの発展・拡大のため、工学部創設への協力を行うとともに、人文・ビジネス系学部の創設も検討していくことを確認した。

くしくも、エルシーシ大統領の来日によって2国間の協力関係が新たな段階を迎えた日と、本稿の執筆(3月3日)が重なった。

これまで、E-JUSTにおける集中講義に携わってきた筆者としては、感慨を新たにしているところである。

開学5周年記念国際会議

エジプト政府は日本型の工学教育の特徴である「少人数、大学院・研究中心、実践的かつ国際水準の教育提供」をコンセプトとする大学を新設するための支援を日本政府に要請。2009年、E-JUST設立に係る協力枠組みを定めた2国間協定の締結によって「E-JUST設立プロジェクト」が始動した。

これまで、日本がエジプトに対して行ってきたさまざまな支援により、同国の教育・研究機関の基盤強化、産業および社会の発展に貢献する人材の輩出において、着実な成果を挙げている。

2015年にはE-JUSTの開学5周年を記念し、5月19日から21日までの3日間、アレクサンドリア図書館において、E-JUST主催／エルシーシ大統領の賛助の下、「E-JUST開学5周年記念国際会議」が開催された。

会議では、「アフリカ・中東の高等教育をいかに推進すべきか」との議論に加え、E-JUSTの過去5年間の研究・教育の成果および産業界との連携事例をテーマに、同地域や欧州の大学学長や研究者、エジプト国内の大学や産業界、JICAの高等教育プロジェクト関係者らを集め、発表・討議が行われた。

3日間にわたる国際会議において、筆者は「日本における技術移転機関の設立と運営の経験～産業発展のための大学と産業界との協働～」と題して基調講演の講師を務めさせていただいた。

会期中は約350名の参加者があり、実に中身の濃い活発な議論が交わされた。また、E-JUSTの研究成果の紹介と併せ、Pharco社(製薬企業)との共同研究やEl Araby社(家電メーカー)の生産ライン改善等、産業界との連携事例についての発表もなされた。



E-JUSTの首脳陣

本国際会議は、E-JUSTの研究が地元企業に活かされ、産業界や地域との良好な関係が育まれていることをエジプト内外に再認識させる機会となった。

また、アレクサンドリア図書館ではARELEN（高等教育におけるアラブ・欧州リーダーシップネットワーク）が主催するワークショップも同時に開催され、筆者はSpeaker 兼 Facilitatorの大役を仰せつかり、約3時間の講義とディスカッションを行った。

ARELENは、アラブと欧州の大学間の協力活動に焦点を当てており、アラブの大学との間でベストプラクティスや経験を共有し、高等教育におけるアラブと欧州間の橋渡しの役割を担っており、約200のアラブの大学と約100の欧州の大学からなるネットワークが構築されている。筆者にとってARELENは新たな出会いの場となった。

世界に誇る学術の殿堂

アレクサンドリア図書館は、紀元前300年ごろ、プトレマイオス朝のファラオ、プトレマイオス1世らによって建設され、「古代最大にして最高の図書館」「最古の学術の殿堂」などといわれており、多くの思想家や作家の著作・学術書を所蔵している。

本が一般的でなかった当時、所蔵文献はパピルスの巻物であった。蔵書は巻物にしておよそ70万巻にも上ったとされる。

また、同図書館は、アルキメデスやエウクレイデスをはじめ、世界各地から優秀な学者が集まった世界最大の学術機関でもあり、世界中から文学、地理学、数学、天文学、医学等、あらゆる分野の書物を集め、ヘレニズム文化における学術研究にも大きな役割を果たしてきた。

多くの科学者がこの図書館で研究に従事し、その研究成果が後の西洋科学の誕生に大きく貢献したといわれる。

国際会議の会期中、なんと、アレクサンドリア図書館の館長自ら筆者たちを館内の博物館に案内してくれた。

古文書と希少本のギャラリー、世界初の図書館内の考古学博物館、エジプト文明のさまざまな時代を物語る収蔵品、物理分野と天文分野に重点を置いているプラネタリウム・サイエンス・センター、科学実験展示コーナーとして設けられたアレクサプロラトリウム等々、古代から現代に至るまで、最高級の図書館を見学させていただいた。

1時間程度の短いツアーながら、世界に誇る逸品に触れることができた。

E-JUSTのますますの発展と、中東アラブ・アフリカ地域の平和を心より願うところである。



基調講演で熱弁を振るう筆者



エルゴハリ学長による講評と閉会の挨拶



ARELENのワークショップ参加者と記念撮影



熱心に質問する聴衆



エルゴハリ学長から感謝状をいただいた



日本の大学から参加した教授陣と買い物